

自治体のマスコット・キャラクター、パリでも大人気！ ージャパン・エキスポで日本の地方と文化をPRー

自治体国際化協会パリ事務所

当協会パリ事務所では、7月1日（木）から4日（日）までパリ近郊ノール・ヴィルパント展示会場で開催された第11回ジャパン・エキスポに出展し、各地方自治体から提供を受けた観光パンフレットの配布などを通じて日本の地方のPR活動を行いました。

ジャパン・エキスポの来場者の多くは10代から20代の若者であるため、彼らの興味を惹くために自治体のマスコット・キャラクターを活用し、PR効果の向上を狙いました。4日間の訪問者はアンケートに答えていただいた方だけで1,200人を超えました。ブースに立寄ってパンフレットを手にとっていただいた方は2,000人を超えると推計されます。なお、主催団体によると今年は昨年を上回る約17万人が来場したとのこと。

今回、私たちがブースを出展するにあたり、若い来場者に対して自治体の何がアピールできるのかということについて懸命に知恵を絞りました。彼らは、日本のポップカルチャーには大いに興味があるけれども、日本の地方についてはあまり知識も関心もないだろうと思われたからです。

そこをつなぐものとして、日本の各地方でまちおこしや観光PRに活用されて人気のあるマスコット・キャラクターを活用しようと考えました。自治体などがつくるマスコット・キャラクターは、その地方を代表する名産品や歴史的人物など地方にゆかりあるものをあしらったものが多いため、それらを通じてその地方への関心を惹き、観光情報など具体的な内容を説明することにしました。

職員の派遣元やフランスと友好都市関係があるなどこれまでにお付き合いの深かった自治体に声を掛け、結果として34の自治体からキャラクター・グッズ及び観光パンフレットの提供を受けました。また、積極的にマンガやアニメを活用してまちおこしをしている自治体や、留学生誘致に意欲的な自治体からもパンフレットを提供してもらい、ブースで情報を発信しました。ブースでは、フランス語での説明などでJET・OBが大活躍しました。



クレアのブース



キャラとパンフでPR



ぐんまちゃんをゲット

今回のジャパン・エキスポでは、従来にない試みが行われました。主催団体 SEFA イベントから、マンガやアニメだけでなく本物の日本文化を紹介してほしいという要請が在フランス日本大使館にあり、無料で 300 席規模のステージを使用できることになりました。そこで大使館広報文化部が音頭を取り、当協会、国際交流基金、観光庁、経済産業省 (CoFesta) が連携して日本文化紹介イベントを開催することになりました。

当協会としては、ここでも JET・OB にご活躍いただくことにしました。日本で生活した経験があり、日本の魅力をよくわかっている JET・OB が、自分の言葉 (フランス語) で自分の目で見た日本の文化や地域の魅力を PR することには大きな説得力があります。私たちが見過ごしがちなことまで、彼らには魅力と感じられ、それがフランス人には共感できるようなのです。

7月3日 (土) と 4日 (日) に行われたステージでは、フレデリック・アンドレさん (元埼玉県 ALT) による三味線演奏、ソフィー・ル・ベールさん (元香川県 CIR) による高松の魅力紹介、そしてエリザ・ミーカーさん (元熊本県 ALT) とその同門による居合道のデモンストレーションが行われました。会場は、熱心に演奏や講演に耳を傾け、また演武を注視する観客たちで立ち見が出るほどの大盛況でした。音楽、観光、武道とジャンルは違えど、それぞれに賭ける思い入れは強く、日本人以上に日本文化を愛し実践している彼らの姿に心を打たれました。



アンドレさんの三味線



ル・ベールさんの高松 PR



ミーカーさんの居合道

今回、4日間ジャパン・エキスポに参加して気づいたことは、フランス人は日本文化を心から楽しんでいるということです。ヨーロッパで最も日本文化の受容が進んでいるのはフランスだとよく言われますが、伝統文化であれポップカルチャーであれ、若者だけでなく 30代 40代の方も含め、本当に日本文化が広く浸透していることが認識できました。

また彼らは、マンガやアニメなどを通じて驚くほど日本のことをよく知っています。有名な観光名所を訪れるのではあきたらず、温泉につかり布団で寝るといった日本の生活を体験してみたいという声が多く聞かれます。ジャパン・エキスポの来場者は、日本に何らかの関心があり、既に日本を訪問したことがある人や近いうちに日本に行きたいと思っている人ばかりです。ジャパン・エキスポをポップカルチャーの祭典としてだけでなく、将来の日本へのリピーターや本格的な日本通を育てる機会として捉え、日本の自治体が積極的に情報発信の場として活用することを期待します。その際は、ぜひクレア・パリ事務所にご相談ください。